

神戸大学H20年度学内公募地域連携事業の報告

「まちづくりに新発想をもたらす 小地域統計分析の試み」

2009年1月13日 神戸大学地域連携活動発表会

経済経営研究所

地域経済統計研究会

相川康子(准教授)

aikawa@rieb.kobe-u.ac.jp

地域経済統計研究会 とは

2008年4月、少子化問題の統計分析を契機に発足

■神戸大学

経済経営研究所：相川（地域政策）

経済学研究科：萩原（現代技術論）、中川（経済地理）

■兵庫県庁

政策室統計課（企画分析係） ←08年より新設

政策室ビジョン担当：時代潮流、小規模集落支援

■市民団体

（特活）ひょうご・まち・くらし研究所

商店街活性化やコミュニティビジネス、作業所支援

⇒「統計分析（鳥の目）」と「現地調査（虫の目）」の両立

⇒「研究」だけでなく、知恵の交流と課題解決モデル構築

なぜ「小地域」の統計分析が必要か

- 平成の大合併で基礎自治体のエリアが拡大
→「我がまち」の実感と統計数字とにズレが生じる
※町丁目、或いは1平方キ。メッシュのデータが必要
- 地方分権、地域主権の深化
→補完性の原理に基づく「小さな自治」の重要性
※歴史を知り、今後を予測する道標としての統計

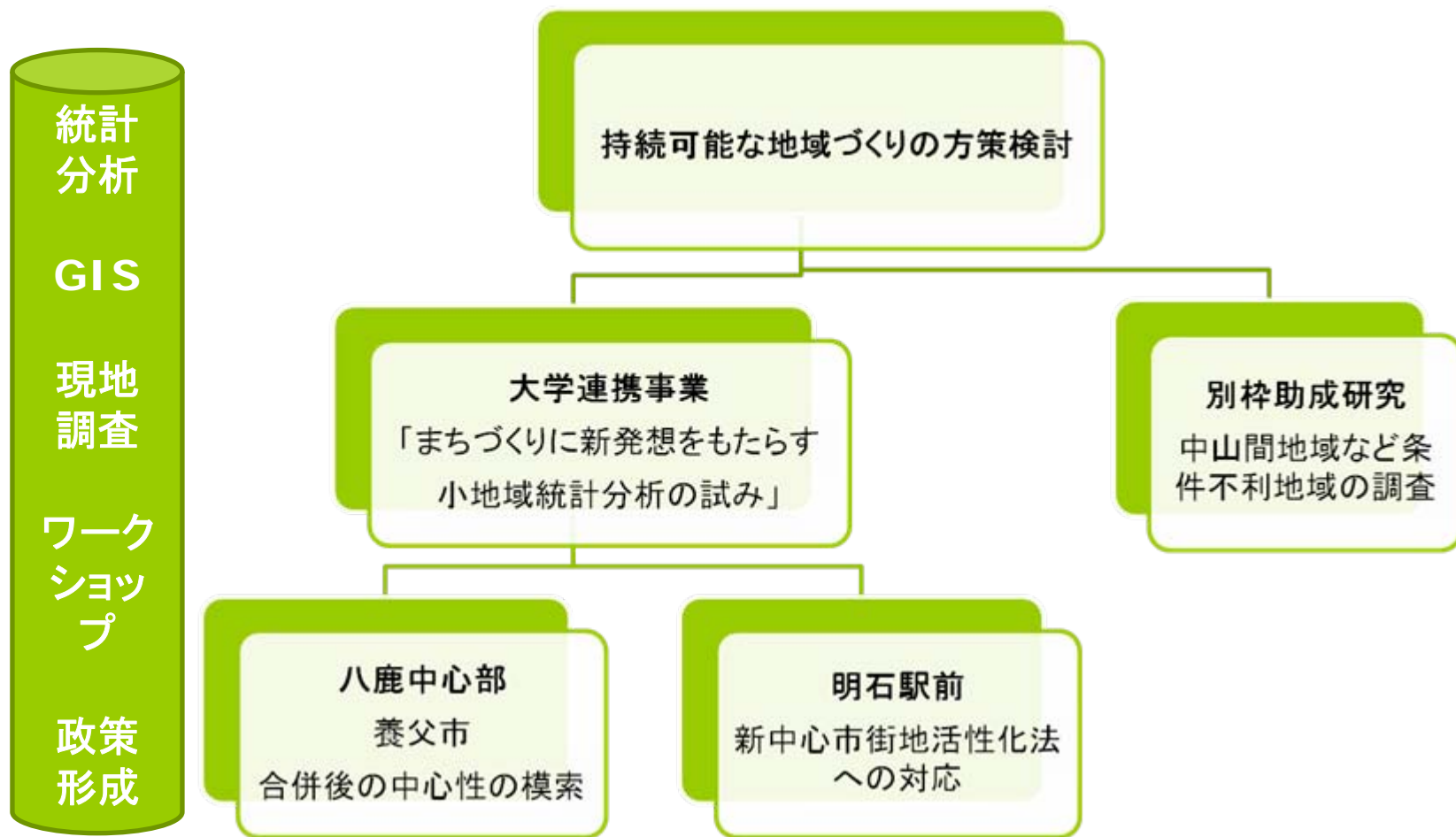


分かりやすく見せる工夫
読み解く能力の習得

平成20年度連携事業の狙い

- 兵庫県内の地域経済に関する統計（国勢調査、事業所・企業統計、商業統計）を、地理情報システム（GIS）を使って分析し、課題を可視化することで、基礎自治体や市民団体に新たな視点を提供し、ともに「身の丈にあったまちづくり」を模索する。
- ともすれば全国画一になりがちな「中心市街地」について、都市部（明石）と非都市部（養父市）の2カ所で、地元自治体、商店主、住民、市民団体の人達と連携しつつ、独自の「活性化」の方向性を考える。

研究会と連携事業の構図



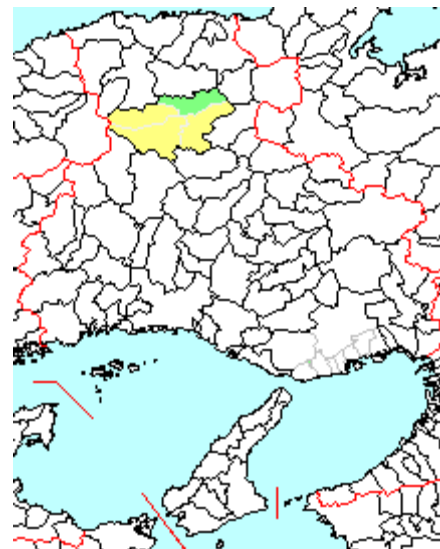
2つの連携パターン

住民協働型 (1) 養父市 八鹿中心部	シンクタンク型 (2) 明石駅前(中心市街地)
<ul style="list-style-type: none">○ジリ貧状態の商店街と、補助金が切れた「活性化推進協議会」○4町合併後の中心性の再検討○将来像の(ゴールなき)検討■まちづくりNPOの存在<ul style="list-style-type: none">大学との連携を起爆剤に、新たな人材(若者、女性)の発掘を狙う■大学の役割<ul style="list-style-type: none">「外からの目・知恵」「意見の掘り起こし」「話し合いのための材料提供」	<ul style="list-style-type: none">○活性化計画(2000年)の見直し○変わる「まちの顔」<ul style="list-style-type: none">商業施設の閉鎖→マンションに○新法のもとで粛々と計画策定<ul style="list-style-type: none">2010年初めに認定申請の予定■自治体内にプロジェクト、公的な活性化協議会も動き出す■大学の役割<ul style="list-style-type: none">「補完的な視野・データの提供」 (近接地も含めた分析、長期的に見た中心地の機能の整理と分析)

(1) 八鹿中心部での連携事業

連携先

- 養父市(企画政策課)、大屋地域局
- 八鹿中心市街地活性化推進協議会
- NPO法人「市民オフィスやぶ」



養父市の概要

2004年4月、4町合併により新市誕生

八鹿、養父、大屋、関宮/約423平方キ、
合併後も人口減少止まらず

国調(2000年)30,110人→合併直前 29,991人
→国調(05年)28,306人→07年末28,230人

八鹿中心部の状況 ①

- ❑ 八鹿駅は1908年開業(昨年記念行事) 木材や鉱石の輸送基地だったため、街の中心部からはやや離れている。
- ❑ 商店街はかつて「八鹿銀座」と呼ばれ 盛況だったが、今はその面影は無い (明延鉱山、ゲンゼ工場などの閉鎖)
- ❑ 30年前、八鹿高校前に 「ショッピングタウン・ペア」 が創業。人気を集めたが 現在は空き店舗も目立つ (周辺に大型店等が進出)



八鹿中心部の状況 ②

- 旧・中心市街地活性化法のもとで2001年6月に活性化基本計画(駅～高校までの商店街、100^{ヘク}_{タール})を策定、03年夏に変更するが、その後、動きは無い
- 04年、県の景観形成支援地区の指定を受け、「うだつ」を残した「大正ロマンのあふれるまちなみ」を目指すが...
- 08年3月、県の「ユニバーサル社会づくり実践モデル」の地域指定



連携事業(八鹿)の進捗状況

- 養父市役所、中心市街地活性化協議会、周辺区長、商店主らとの事前調整会議(7/29) ※学内助成決定(8/22)
→養父市より、これまでのまちづくりの関連資料の提供
- 第1回 現地視察(9/1)、オフィスやぶへのヒアリング
- 研究会(9/19):基礎的な統計データの検討
- 研究会(10/2):仮説に基づくデータ分析
- オフィスやぶと打ち合わせ(11/10)
- 八鹿中心部にて「第1回八鹿ミニフォーラム」開催(11/11)
- 研究会(12/16):中心性の検討論議
- 八鹿の活性化協議会、養父市役所との共同現地調査プラス女性だけのまちづくりワークショップ(12/17)
- 第2回八鹿ミニフォーラム(1/20)
2月中旬に女性まちづくりWS,3月に成果発表会

八鹿の状況と大学の関わり方



合併後にまちづくりWSが多数開催
(地元では、消化不良の感も)



ミニフォーラムで車座談義
住民、大学、自治体が一緒にまち歩き

公的な場で女性や若者が発言しづらい



女性だけの懇談会の開催
「オフィスやぶ」による若手の一本釣り
地元組織への働きかけ



地元の人たちと……

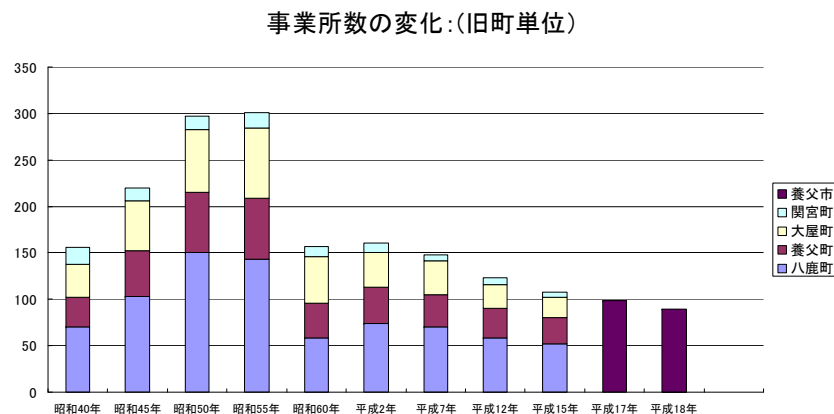
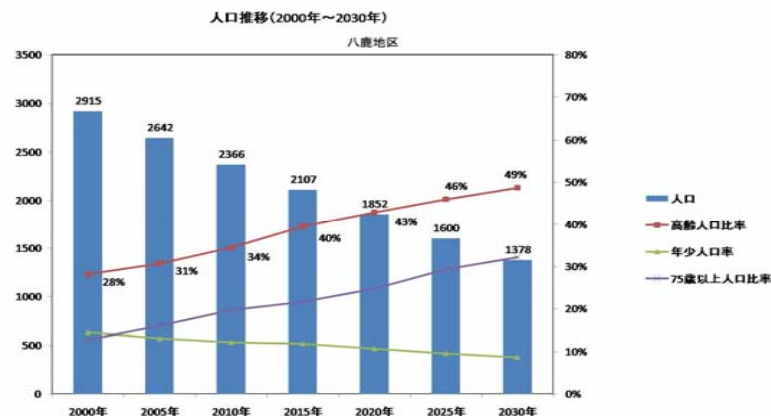


研究会が提供する視点 地元が「肌」で感じている事象を統計分析で実証

- 人口減少の実態と将来予想
 (世代間バランス、世帯人員の変化)
- 事業活動の衰退
 (事業所数、従業員数、製品出荷高)
- 商業活動の衰退
 (小売業・卸売業の店舗数、従業員数、販売額…)

※長いスパンで変化を見る
 ※中心部、旧町単位、市全体、
 但馬地域、兵庫県全域など
 複数の視点で見る

※共通認識にするには…?



研究会が提供する視点/GISによる検討事例

周辺ロードサイトショップの立地状況



研究会が提供する視点

中心性の議論と病院を生かしたまちづくり

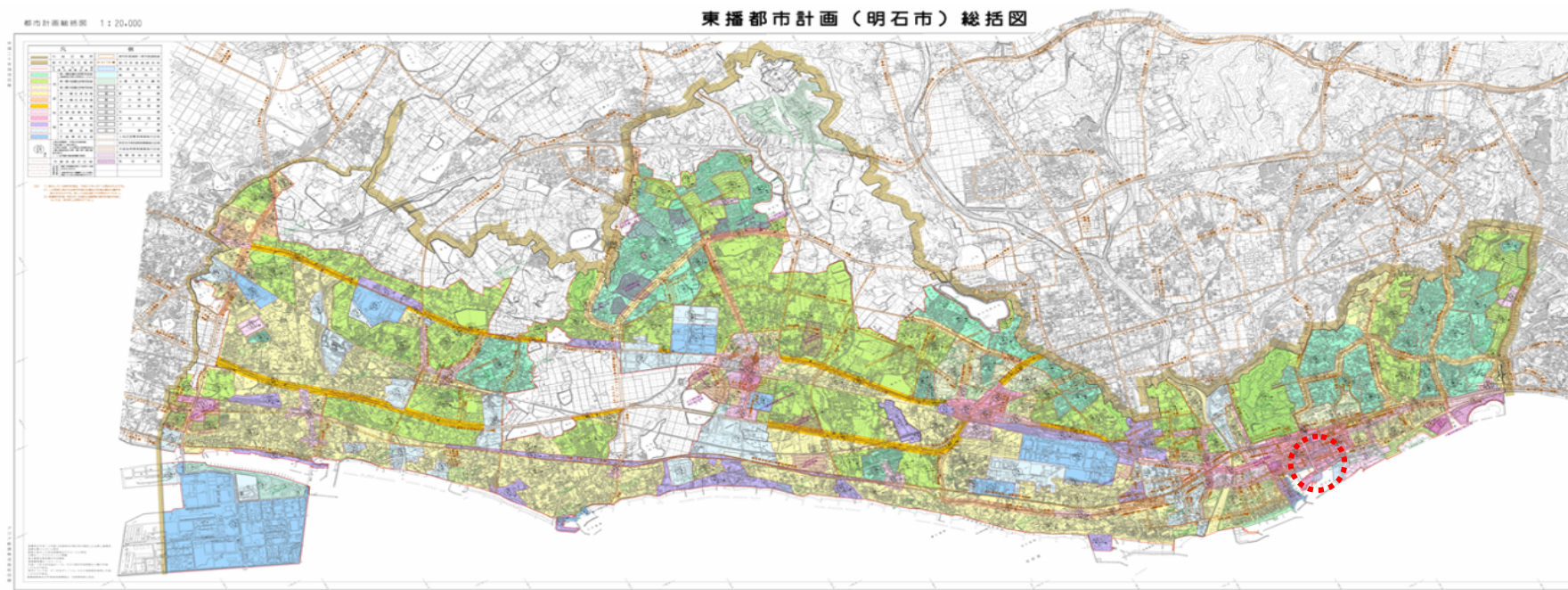
- 養父市全体での八鹿中心部の位置づけ
中心市街地は住民だけのものか？
(旧養父、大屋、関宮の衰退はさらにひどい)
高齢化と購買行動の変化
- 公立八鹿病院の立地効果
雇用、関連ビジネスの立地、
安心の拠点
通院・見舞い客らの通行(にぎわい)



(2) 明石市との連携事業

連携先

- 明石市中心市街地活性化プロジェクト(08年度新設)
- 明石中心市街地まちづくり推進会議
- 市民まちづくり研究所



明石中心市街地の状況 ①

(3) 中心市街地活性化基本計画対象地域



(4) 中心市街地及び周辺エリア



対象町丁名	中心市街地	北エリア	西エリア	東エリア	明石市計
	備前町2丁目	大寺大野町	大崎石町2丁目	大蔵八幡町	
	中崎1丁目	大寺又五郎	村木町	大蔵町	
	中崎2丁目	大寺1丁目	柳屋町	大蔵中町	
	跡地屋敷	大寺2丁目	日置橋町	大蔵本町	
	桜町	大寺3丁目	大蔵町	大蔵天神町	
	美作ノ町	大寺4丁目	清町	大蔵町1丁目	
	大崎石町1丁目	東人丸町	神町	大蔵町2丁目	
	本町1丁目	人丸町		親土町1丁目	
	本町2丁目	山下町			
		上ノ島1丁目			
		上ノ島2丁目			
		上ノ島3丁目			
人口(H20)	7,108	8,730	6,099	3,875	292,659
高齢化率(H17)	18.0	24.5	25.7	26.1	18.3

- 明石駅から明石港までの約60ha
(東西約1^キ□、南北0.9^キ□)
- 2000年3月、旧中心市街地活性化法に基づく活性化基本計画を策定。翌年、再開発ビル(アスピア明石)開店。05年に駅前ダイエー閉店。
- 2000～08年で人口は約8%増
(市全体は横ばい)(高齢化率18・1%)
- 1999～04年で小売店販売額は約20%減少
- 98年4月の明石海峡大橋開通でフェリー・汽船の利用者が激減

明石中心市街地の状況 ②

第1回 明石市中心市街地活性化協議会(08/9/26)の報告資料より抜粋

事業分類	完了	未実施	合計
1. 中心市街地の整備改善のための事業	12 38.7%	19 61.3%	31 100.0%
①快適居住環境づくり	3 42.9%	4 57.1%	7 100.0%
②商業観光の振興	3 37.5%	5 62.5%	8 100.0%
③交通利便性の向上	6 37.5%	10 62.5%	16 100.0%
2. 商業の活性化のための事業	5 45.5%	6 54.5%	11 100.0%
3. その他の事業	5 50.0%	5 50.0%	10 100.0%
総事業数	22 42.3%	30 57.7%	52 100.0%

←旧基本計画に位置づけられた事業の進捗状況

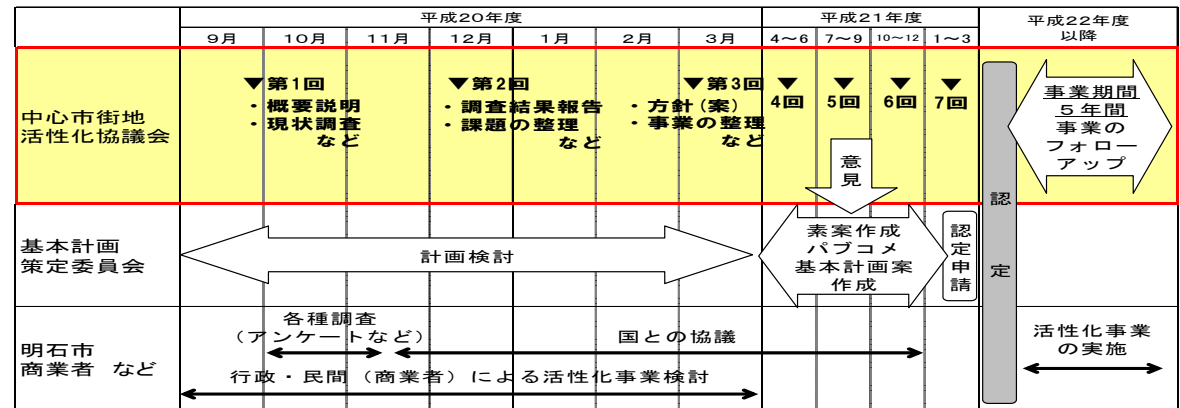
※都心居住、道路整備、再開発事業で一定の進捗、回遊促進策や明石港整備は限定的

※TMO構想に基づく「中心市街地まちづくり推進会議」がご当地検定やイベントを実施

協議会スケジュール→

08年度は内部で計画検討
09年前半に素案作成とパブリックコメント
09年度末に新法のもとでの認定申請

明石市中心市街地活性化協議会スケジュール(案)



連携事業(明石)の進捗状況

- 明石市中心市街地活性化プロジェクトとの事前打ち合わせ(8/13)

※学内助成決定(8/22)

- 市および中心市街地まちづくり推進会議との打ち合わせ&第1回現地視察(8/27)

- 市(+商工労政課)との面談(9/24)

- 公的協議会の発足(9/26) ←傍聴

- 研究会:調査方針決定(10/2)

- 研究会:作業データ検討(12/12)

- 研究会:第2回現地調査(12/22)

- 中間報告&意見交換会(1/15)

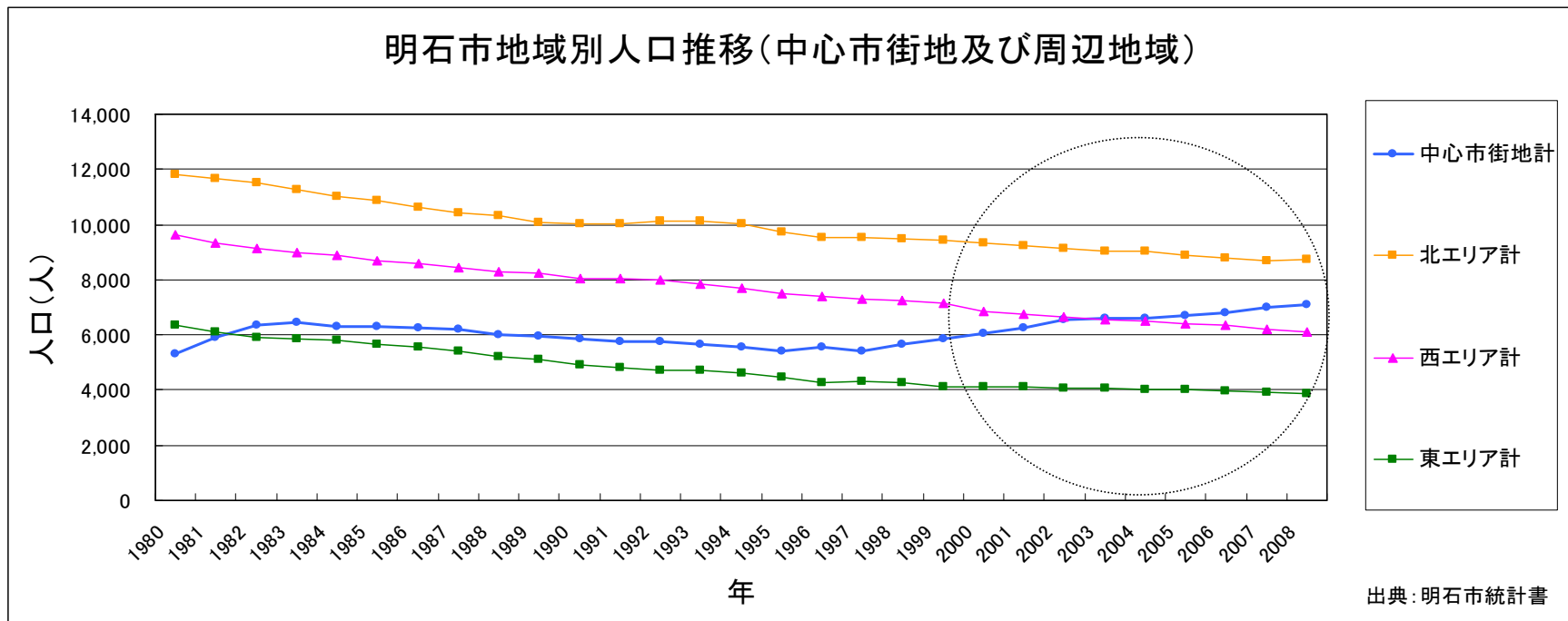


年度末に向けて引き続き調査・提言



研究会が提供する視点

長期のトレンド／周辺地域も含めた検討

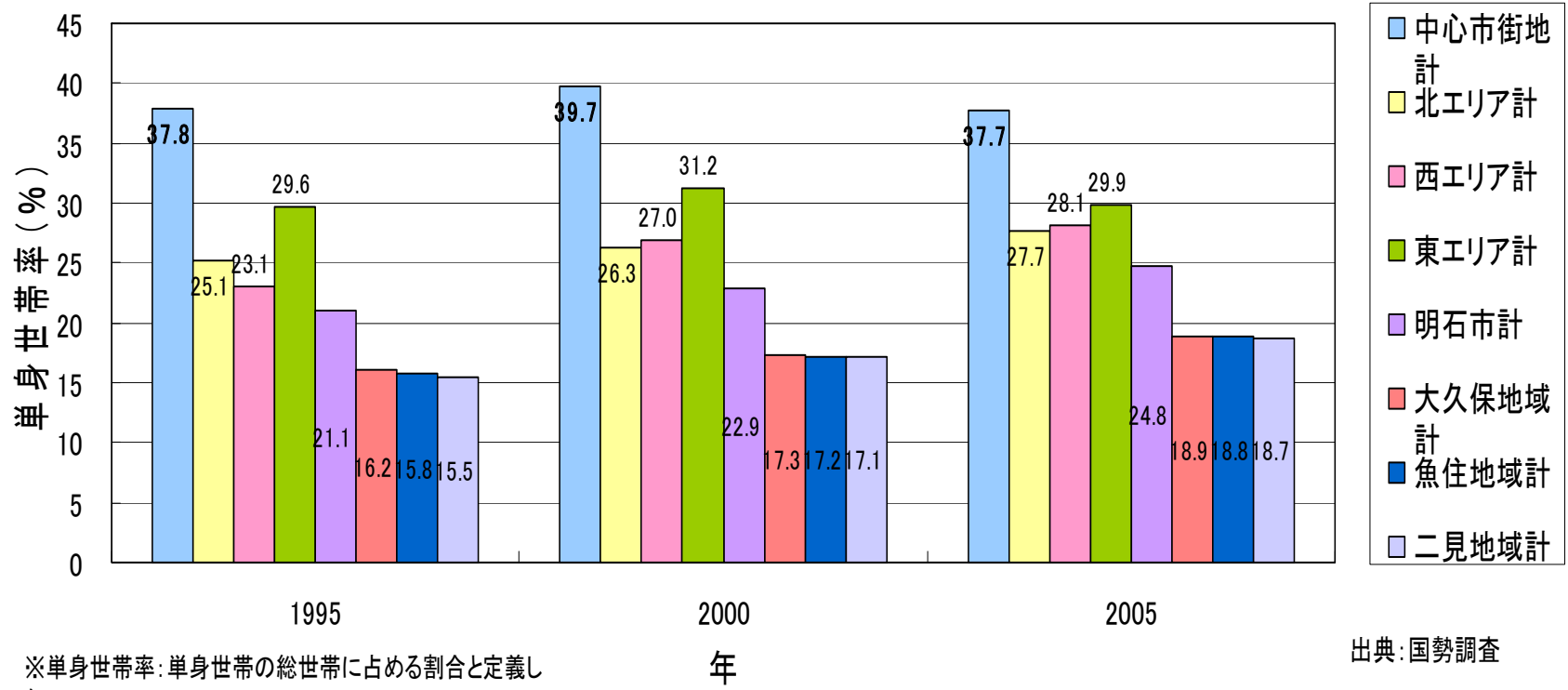


- ❑ 旧基本計画(2000)から現在(2008)のトレンドだけでは分からない
1980年ごろからの長期的な傾向を見る必要がある
- ❑ 規定の「中心市街地」だけでなく、周辺地域まで含めて考えるべき

研究会が提供する視点

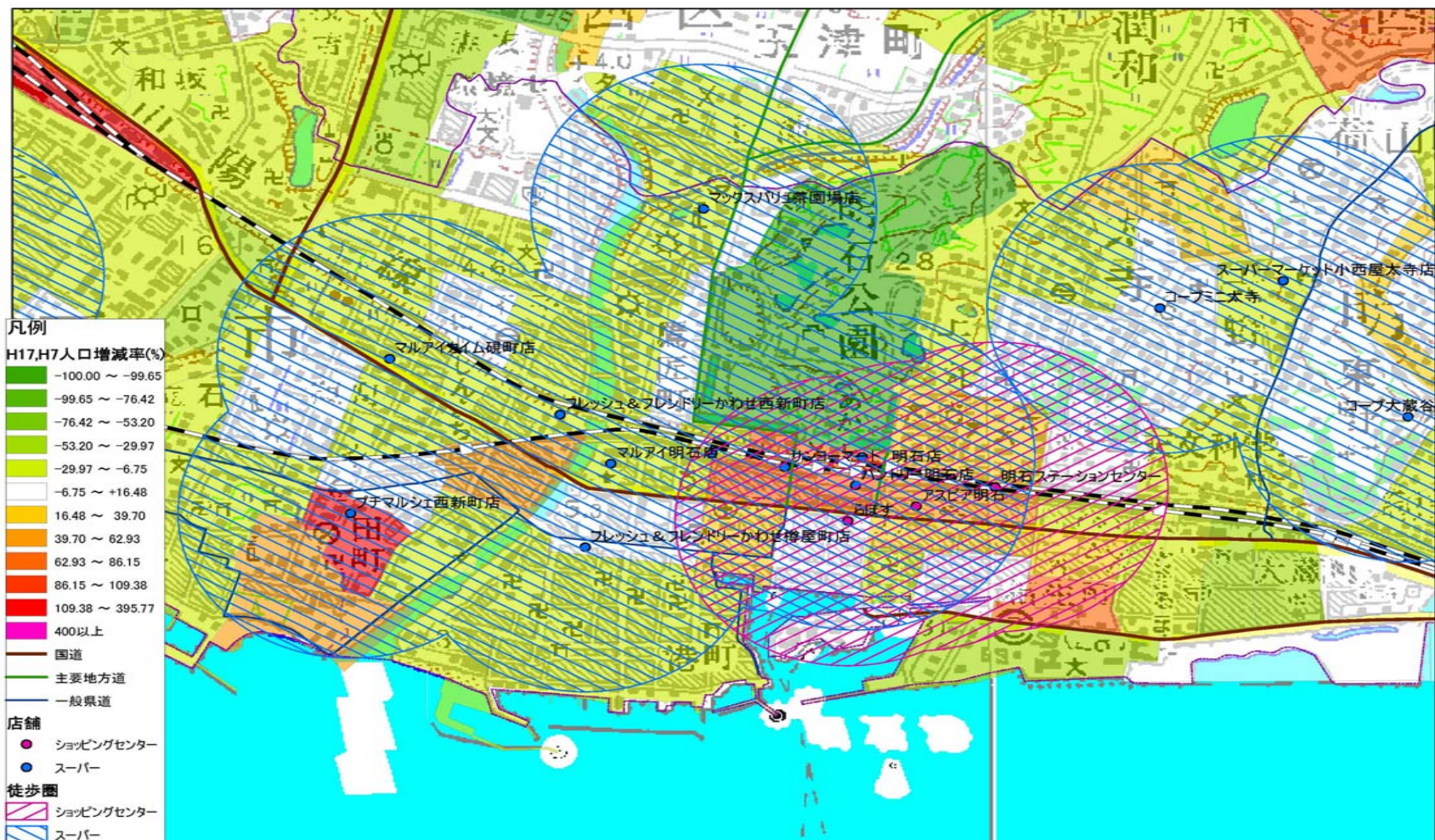
世帯の変化が購買行動に変化をもたらしている

明石市地域別単身世帯率推移(中心市街地及び周辺エリア)



研究会が提供する視点/GISによる検討事例

中心部と周辺地域の人口増減率と商業施設



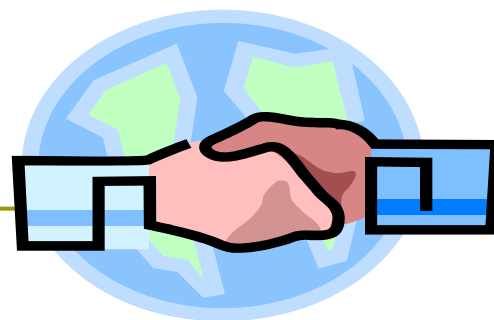
今後の予定、課題

- 近日中に、それぞれ現地報告と年度末までの作業の打ち合わせ → 来年度の話がどこまでできる？
- GISの習熟
- 駅前や中心地に求められる「機能」の整理



※「八鹿」「明石」という個別の事例を、いかに、まちづくり支援の共通手法に発展させていくのか？

まとめに変えて



今回の地域連携事業の意義

- まちづくりに取り組む自治体や市民に対する(無償の?)
知見の提供、情報リテラシー
- 大学(研究会)が触媒となり、地域における新たなネットワークを構築(人材の発掘、世代交代)する可能性
- 研究者や学生にとって「現場」を知る貴重な機会

連携を続ける上での課題

- 継続のための枠組み(人材、資金)
- 「できること」と「できないこと」の整理、合意

・・・機会を与えていただき、有難うございました。